

## おわりに

平成 15 (2003) 年度より 3 年間の文部科学省科学研究費助成を受け、最初の 2 年間にアジア諸国ならびに米国の教育機関等においてインタビュー調査を行った。最後の 1 年間は日本全国の四年制大学への質問紙調査を行い、また特色ある取り組みをしている大学においてインタビュー調査を行った。海外調査は計 8 回に及び、7 か国の関係者 75 人以上にインタビューすることができた。これら一連の調査は超過密スケジュールで行ったのであるが、予期していた以上の成果を収めることができた。インタビュー調査、質問紙調査にご協力いただいた多くの方々に深く感謝の意を表したい。

特に、豪州調査では国際教育の分野で著名なオーストラリアのメルボルン大学高等教育研究センター教授サイモン・マージンソン(Simon Marginson)先生に親しく貴重なお話を伺うことができた。また、この期間に鹿島学術振興財団の助成をいただき、同先生とモナシ大学の橋本博子先生を日本にお招きし、さらに貴重な示唆をいただいた。シンガポールでは、横田の一橋大学での教え子で現在は政府機関 SPRING のシニア・エグゼクティブであるロー・カム・イン(Loh Kuhm Yean)氏が全てのスケジュールをアレンジしてくれた。また、香港では、香港大学 SPACE の T. K. Tan (陳徳奇)先生がスケジュールのアレンジのみならず、丁寧な解説と案内をしてくださった。また、米国調査では、メンバーの太田の大学院指導教員であるニューヨーク州立大学バッファロー校の副学長兼教育学大学院教授スティーブン・ダネット (Stephen C. Dunnett) 先生にいろいろとご指導いただいた。この場を借りて、心から御礼申し上げたい。

日本全国の四年制大学への質問紙調査では、今思えば質問紙に改良の余地が多々あると思われるが、今回のような多数の質問項目を含む調査に、50%を超える回答が寄せられたことはまさに驚きであった。特定非営利活動法人 JAFSA (国際教育交流協議会) の許可を得てそのメーリングリストで何度かお願いし、また葉書による催促や個人的な伝手を通して直接お願いするなど、ご多忙の時期にご迷惑をかけてしまったことお詫び申し上げたい。また立命館アジア太平洋大学と東北大学では、ご多忙にもかかわらずインタビュー調査を快くお受けいただいた。誠にありがたく、厚く御礼申し上げたい。

この一連の調査で明らかになったことは、米国・豪州・シンガポールなどの大学に比べ、日本の大学には国際化の課題が山積していることである。どれも早急に取り組みねばならない課題のように思われる。ここ数年、ようやく動きが感じられるようになったが、まだ始まったばかりである。個々の大学と関係諸機関(産官学民)が連携して戦略的に国際化を進めていかねばならない重要な時期にあると思われる。この 3 年間のわれわれの研究成果がこの課題解決に少しでも寄与できたならば幸甚である。

2006 年 9 月 20 日

研究担当者一同

